

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	読書活動の充実	会計	款	項	目	13,971,572	学校教育課
		一般	10	2	1		
				3			
事業の概要							
	確かな学力を育むために読書活動の更なる推進を図ります。						

D
(取組)

平成29年度の取組							
指標	児童一人あたりの図書室図書の読書冊数					単位	冊
現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
30.4(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
	実績	32.5	36.2				
指標	生徒一人あたりの図書室図書の読書冊数					単位	冊
現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
8.1(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	
	実績	7.1	8.2				
・文部科学省が定める「学校図書館図書標準」を目標とし、各校において新規図書の購入及び蔵書の整備を行いました。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行いました。 (読み聞かせ等本に触れる機会の設定、委員会活動の充実、選書会の実施、配架の工夫等) ・ふるさと納税「こどもたちに本を贈ろうプロジェクト」により、小中学校合わせて約1,300冊の図書を購入しました。					読書活動風景		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—		—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 通常の蔵書整備とふるさと納税による購入により、全体として蔵書冊数を増やしており、児童生徒が本を手にとりやすい環境を整えることができました。 ・ 図書館司書の配置により、啓発活動や本の借り方指導等を実施することができ、児童生徒が図書館利用、読書しやすい環境を整えることができました。 ・ ふるさと納税により多くの図書を購入し、蔵書内容を充実させることができました。	
	課題等	・ 児童生徒が読書する機会を増やすための図書館環境の更なる充実が必要です。 ・ 適切な蔵書の更新（古い本の廃棄）が必要です。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き、「学校図書館図書標準」を目標とし、蔵書の整備を行います。 ・学校図書館司書を配置し、図書館環境の整備、啓発活動等を行います。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	外国語活動推進事業	会計	款	項	目	15,953,085	学校教育課
		一般	10	1	2		
		事業の概要					
	英語教育の充実のため、小学校においては外国語活動指導員(日本人)による授業回数を拡充し、外国語活動の充実をさらに進めます。また、中学校においては、英語指導助手(AET)をアーリントンから招き、ネイティブの英語に触れ、異文化や異なる生活習慣を学ぶ機会を設けることで、グローバルな人材の育成をさらに進めます。						

平成29年度の取組						
D (取組)	指標	京都府学力診断テスト質問紙調査における、「外国語活動の勉強は好きだった」の回答率				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	70.0(平成26年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	76.3	77.2		
		・生きた英語に触れる機会を作るため、2名のAETを中学校に配置し、英語のコミュニケーション能力の向上に努めました。また、小学校にも延べ68日訪問しました。 ・小学校における外国語活動の指導の交流、工夫や改善をめざすため、小学校外国語活動指導員を各小学校へ配置し、1～4年生は年間10時間、5・6年生は35時間の外国語活動を行いました。また、指導員のミーティングを年間13回実施しました。				外国語活動風景



施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応真
		—		—	—
	達成度合	達成状況	・平成28年度に引き続き、積極的に授業を受けています。 ・小学校への訪問が、前年度に比べ4日増えてましたが、問題なく対応できました。		
	課題等		・次年度から、授業時間数及び学習内容が増加するため、円滑な授業の運営が課題です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当 対応策等 ・次年度から、授業時間数及び学習内容が増加することに伴い、授業を円滑に運営するため、教職員研修や、AETとの連携を進めていきます。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	中学校米国短期交換留学事業		会計	款	項	目	2,245,505	学校教育課
			一般	10	1	2		
	事業の概要							
	米国アーリントンへの短期留学によって、異文化を知り、自己を相対化する視点をもつことで、グローバルな舞台でも積極的に挑戦し活躍できる人材となれる機会を提供します。							

平成29年度の取組						
D (取組)	指標	訪米生徒の市民対象報告会の参加人数				単位 人
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31 32
	149(平成27年度)	目標	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加	前年度より増加
		実績	151	143		
	・本市から4月26日～5月6日の日程で中学生16名と引率3名がアーリントンを訪れました。訪問中は、ダリン小学校・オトソン中学校・アーリントン高校で生徒間交流や施設見学をするとともに、アーリントン・ボストン市内及びハーバード大学を見学しました。さらに、ホストファミリーとともに過ごすことで、アメリカ文化の一端に触れることができました。 ・また、7月6日～7月17日の日程でアーリントンの中・高生が長岡京市を訪問し、児童生徒やホームステイ先家族と交流を持ちました。 ・帰国後、現地での活動内容や学んだこと、訪米期間中に感じたことを生徒達が映像を交えて市民対象に報告会を開催し、多くの市民に世界にチャレンジし異文化を体験する魅力の発信をしました。報告会に向けて、多くの市民に参加していただくため生徒及び保護者全員に開催チラシの配布を行うと共に広報誌やホームページにも掲載しました。				アーリントンへの訪問風景 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド 対応頁
		—		—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・中学生への事前説明会や広報紙などを通してPR活動を行い、65名の応募者から厳正なる審査の結果、意欲的な16名の生徒を選出しました。その後、訪問団員は約6カ月の英語学習により、英語運用能力を向上させた上で姉妹都市を訪問しました。その結果、訪問後の生徒の作文などから、英語でコミュニケーションを取る喜びを感じたこと、貴重な体験への感謝や英語に対する学習意欲の向上が見られたことなど、訪問団員である生徒に良い効果をもたらしました。
	課題等	・市民対象報告会の参加人数を増やすため、本事業で得られる体験や学びを発信したり、市民対象報告会の開催について広報する機会・取組を増やすことが必要です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 対応策等 1: 計画通りに進めることが適当 ・広報紙に、適切な時期に市民対象報告会開催案内を掲載します。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	中学校給食の導入と 小学校給食施設の改善		会計	款	項	200,921,600	学校教育課
			一般	10	1		
	事業の概要						
	子どもの育ちを支える観点などから中学校給食導入に向け、実施方式、提供方法等の整備を進めるとともに、老朽化している小学校給食施設の改善に努めます。学校給食において地産地消の推進と食育に関する指導の充実に努めます。						

平成29年度の取組								
D (取組)	指標	小・中学校給食施設の改修状況（※平成29年度からの目標指標）					単位	-
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31	32	
	平成28年度新規事業	目標	小・中学校給食施設の改修・設置計画の策定	中学校給食開始に向けて、親校となる小学校給食施設の改修及び子校となる中学校配膳室の準備	中学校給食の開始(2校/4校)	中学校給食の全校実施(4校/4校)	・中学校給食の継続実施 ・小学校給食施設の改修計画の検討	
		実績	中学校給食施設の建設及び小学校施設改修計画の策定	中学校給食施設の建設及び中学校配膳室の整備並びに施設の改修				
	・中学校給食開始に向けて、長六小、長八小、長十小敷地内に共同調理場を、長四中に給食室を新たに整備します。平成29年度は長十小敷地内に北部共同調理場を建設し、長二中には配膳室を整備しました。 ・長十小、長二中については併せてエレベーターの設置も行いました。					給食室風景		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド
		—		—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・北部共同調理場及び長二中配膳室、長十小及び長二中のエレベーターの整備ができました。 ・長三小、長四小、長九小の給食室において、エアコンの設置及びカート洗浄場の設置並びに給食機器の移設改修ができました。
課題等		—		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1. 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・平成30年度は、中学校給食実施に向けて、関係機関、地域や保護者とも連携を取りながら、長四中給食室及び南部共同調理場の建設並びに長六小給食室の解体を行います。 ・埋文調査やプール、技術室等の解体、倉庫の新設等付随した工事の調整を図る必要があります。 ・給食に関する栄養や、片付け方マナー等の給食指導を、4中学校が足並みをそろえてできるよう、平成29年度作成の手引きを使用しながら、給食指導に関するソフト面の整備を行います。 ・中学校給食にも地元産農産物を提供できるような体制づくりの検討を行います。 ・中学校給食の開始にあたっては、質を落とすことなく、小学校と同じ給食の提供を目指します。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	学びをはぐくむ土台づくり支援事業	会計	款	項	目	6,874,294	学校教育課
		一般	10	1	2		
	事業の概要						
	各学校の課題に応じ、大学教員等を講師とした研修による教師力の向上と学力低位層児童生徒の支援(学力向上サポーター配置)を行い、児童生徒の学力向上を目指します。 また、小学校で平成32年度から、中学校で平成33年度からアクティブラーニング(主体的・協働的な学習)がキーワードとなることから、デジタル教科書やタブレット端末等のICT活用を図ります。						

平成29年度の取組						
D (取組)	指標	京都府学力診断テストで正答率が50%未満の割合				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	小学4年生 国語 17.58 算数20.75 中学1年生 国語 13.01 数学34.85 中学2年生 国語 15.01 数学21.79 (平成26年度)	目標	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少	前年度より減少
		実績	小学4年生 国語 16.13 算数11.29 中学1年生 国語 13.72 数学16.37 中学2年生 国語 10.91 数学20.21	小学4年生 国語 10.99 算数13.11 中学1年生 国語 18.91 数学25.89 中学2年生 国語 15.84 数学17.19		
		- 各学校においては、新学習指導要領実施の準備期間に向けて、教職員対象の研修を実施しました。 - 中学校では学力向上サポーターの配置を行い、学習の補助を行いました。 - 長岡第五小学校と長岡中学校にタブレット型のパソコンを配備し、授業の中で能動的活動から深い学びにつながる仕組みづくりを研究しました。				タブレットを利用した授業風景

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	・昨年より正答率50%以下の割合が増加した教科については、京都府全体の平均点が昨年より低く、問題の難易度による結果であると考えられます。 ・どの教科においても正答率50%以下の割合は、京都府より本市の割合は少ないので一定力をつけていると捉えています。 ・各学校では、授業研究を中心にした実践的研修で、講師の指導助言を得ることで、教職員の意識の変容が見られ授業改善が進みました。 ・配備したタブレット型パソコンを使用した公開授業では、グループで話し合いながら意欲的に取り組む児童生徒の姿が増えました。	
A (行動)	課題等	・個々の学力差が大きく、特別支援や配慮の必要な児童生徒や、基礎基本的な学力が定着していない生徒への、個別指導・支援を充実させるための手立ての検討が必要です。		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き、大学教授等の専門的、分析的な視点から指導・助言を得ることでさらに授業力の向上を図り授業改善を進めます。 ・各学校において教職員対象の研修を実施し、教師力の向上を図ります。 ・中学校では学力向上サポーターの配置を行い、継続して学習の補助を行います。 ・平成30年度はP Cルームの機器更新にあたり、導入するタブレット兼用PCの効果的な活用の研究を、教育支援センターと共に進めていきます。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課
	「育ち」と「学び」の支援体制整備	会計	款	項	目	97,448	教育支援センター
		一般	10	1	6	3,103,666	
	事業の概要						
	各学校の課題に応じ、大学教員等を講師とした研修による教師力の向上と学力低位層児童生徒の支援(学力向上サポーター配置)を行い、児童生徒の学力向上を目指します。 また、小中学校では、次期学習指導要領からアクティブラーニング(主体的・協働的な学習)がキーワードとなることから、デジタル教科書やタブレット端末等のICT活用を図ります。						

平成29年度の取組						
D (取組)	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(小学校)				単位 %
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31 32
	90.1(平成26年度)	目標	91.0	92.0	93.0	94.0 95.0
		実績	86.4(小学6年生)	86.7(小学校6年生)		
	指標	全国学力・学習状況調査の質問「学校に行くのは楽しいと思う」に対する「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答率(中学校)				単位 %
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31 32
	85.0(平成26年度)	目標	86.0	87.0	88.0	89.0 90.0
		実績	86.1(中学3年生)	82.5(中学3年生)		
	・「育ち」と「学び」の具体的支援として、教育最前線を担う教員の指導力向上のための教職研修事業、児童生徒の学習意欲を喚起する学習発表会事業、子育てや学校生活における安心と信頼に側面的に支援する教育相談事業と適応指導教室事業を実施しました。 ・適応指導教室(アゼリアひろば)では、不登校児童生徒が学校生活や社会生活における自立の力を身に付けられるよう集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等の相談と指導を行いました。 ・教育相談事業では専門相談員(カウンセラー)による面談及び電話による相談、児童精神科医師による相談やプレイセラピーも実施しました。 ・28年度から引き続き文部科学省の不登校児童生徒への支援モデル事業の委託を受け、教育相談員・教育支援員を市内小学校に派遣する取組を行いました。				適応指導教室(アゼリアひろば) 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成29年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド 対応員
		—		—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%～100%程度)	達成状況	・児童生徒が、学びの場である学校が楽しい所であると認識できることは、学校教育が総合的に良好に機能している事と言えます。目標より低くなっていますが、府平均比較で小学校+1.1%、中学校+2%となっています。また、同時期実施の京都府学力テストでは小学4年生の87.1%、中学1年生の92.1%が楽しいと答えています。各学校の特色ある教育活動の成果と考えます。センターとしては、対処療法的な取組以上に、教職員研修や発表会事業等の児童生徒の成長と発達への積極的な取組が市内各校の教育活動に反映しているものと考えます。また、保護者や教職員の子育てや教育に関する悩み等に対応した教育相談や学校現場に心理の専門家が向かい合う直接の心理的支援の機会が充実したことによる教育への期待感や安心感も作用していると考えます。
課題等		・児童・生徒にとって”行きたくなる学校””楽しく遊べる学校”となるよう教員の指導力量に向けた教職員研修の充実 ・児童・生徒・保護者・教員等の教育上の悩みについて、タイムリーに対応できる相談体制の充実		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・今日的教育課題に即したテーマ設定及び研修形態等を工夫した研修を企画する ・教育相談機能(適応指導教室を含む)の啓発と柔軟な相談対応を行う

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目				決算額(円)	担当課
	いじめの問題等への対策	会計	款	項	目	903,909	学校教育課
		一般	10	1	2		
		事業の概要					
いじめ等対策指導員を配置し、いじめ等の実態把握を行うなど、各学校への巡回指導を実施します。各学校では、学期ごとにいじめアンケートを児童生徒に行い、いじめの早期発見・早期対応に努めます。							

平成29年度の実績						
D (取組)	指標	重大事案発生数				単位 件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	0(平成26年度)	目標	0	0	0	0
		実績	0	0		
	・毎学期、いじめアンケート及び聞き取り調査を行い、事象に対する早期対応に努めました。 ・「いやな思いをした」児童生徒については、日々の様子に複数教員で目を配り、約3か月後に再度事象が継続していないかなどの確認を行いました。(追跡調査の実施) ・解消に至らない事象については、校内のいじめ対策委員会に市教委も入り、協議し解決に向け取り組みました。					

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成29年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—		—	—
	達成度合	達成状況	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上) ・ いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の出席状況、学習状況、生活環境など把握し教職員との情報共有を行うことで、いじめにつながる芽の早期発見に努めました。 ・ 認知件数は、小学校中学校共に昨年度より減少しました。 ・ SNS上のトラブルは増加傾向にあり、低年齢化しています。		
	課題等	・ 今後も、日々のきめ細かな児童生徒の観察を行うために、情報共有の場や組織対応での見守り強化が必要です。 ・ 早期にSC、市教委、教育支援センターなどとの連携・相談できる体制づくりが重要だと考えます。 ・ 早期発見、早期対応に向け、児童生徒の援助希求的態度の育成、自殺予防教育等の取組が必要です。			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き、いじめ等対策指導員が学校を巡回し、児童生徒の生活環境から教職員との情報共有を行い、また、学校生活での観察を行います。 ・改訂されたいじめ防止基本方針の理解を深める研修や、いじめ対応SCや養護教諭等と連携し、自殺予防教育の推進に向けた教職員研修に取り組むよう努めます。

分野	13	学校教育
施策	131	学びの充実
5年後の目標		学校・家庭・地域の連携のもとで、児童生徒が「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」を育んでいる。

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目				決算額(円)	担当課
	学校での部活動支援		会計	款	項	目	1,577,730	学校教育課
			一般	10	3	1		
	事業の概要							
部活動の充実を支援するとともに、競技力の向上を図るため、遠征費等の充実に努めます。								

平成29年度の実績						
D (取組)	指標	長岡京市スポーツ賞のわかたけ賞受賞者数				単位
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	31
	20人 9団体 (平成26年度)	目標	—	—	—	—
		実績	23人 7団体	33人 10団体		
	・平成29年度は府大会50%、近畿大会70%。全国大会100%の補助率で大会出場に係る交通費等の補助を行いました。 ＜実績＞ - 長岡中学校：733,580円 - 長岡第二中学校：35,140円 - 長岡第三中学校：766,360円 - 長岡第四中学校：42,650円 ・地域を支える中学校教育支援事業を活用し、ボランティアを配置しました。 ・中学校吹奏楽合同演奏会の開催支援を行いました。				部活動風景	



施策の「5年後の目標」に対する評価						
平成29年度の達成状況						
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド		
		—		—		
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・平成29年は、合計1,577,730円補助を行い、保護者の経済的負担の軽減を行いました。 ・全国大会は、開催場所によっては、相当な保護者負担となる為、各種選手派遣補助金制度は保護者の負担軽減となっています。 ・また、近畿大会へ63名、全国大会へ9名が出場し、生徒全体の競技力の向上が見られました。		
	課題等	—				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	・今後も、遠征費(交通費等)の補助及び発表会の開催支援等、部活動への側面的支援を行います。